

2016年7月 地域自然情報研究会



地域との協働による侵略的外来種の排除を通じた 水生昆虫の保全

西原 昇吾 氏 (中央大学保全生態学研究室)

わが国の里山環境の水辺生態系は生物多様性の高い環境であり、かつて氾濫原に生息していたゲンゴロウ、タガメなどが、稲作とともに残存してきた。しかし、これらは各種開発や圃場整備、農薬使用などにより、各地で絶滅の危機に瀕している。最後まで残存してきた東北や北陸などの地域でも、1990年代以降の侵略的外来種の侵入により危機的な生息状況となっている。水辺の侵略的外来種としてオオクチバス、ブルーギルの影響は大きく、対策も進展してきた。また、コイの影響について、近年では、ウシガエル、アメリカザリガニの影響についても明らかになってきた。

これらの侵入に対し、在来の生態系保全を目的として、地域レベルでの排除も開始されており、その効果も見られつつある。侵略的外来種の侵入の現状およびその影響、千葉や石川、岩手における協働による排除の効果について紹介する。

開催日時

2016年7月23日(土) 18:00~19:30

参加費

500円(ただし、GCN会員は無料)

お申し込み・お問い合わせ

当NPOのホームページ(下記)よりお申し込み下さい。

<http://www.geo-eco.net/>

NPO法人 地域自然情報ネットワーク 事務局
(gcnken@gmail.com 担当:梶並)

会場案内

新宿区環境情報学習センター 2F 研修室
(エコギャラリー新宿)



地域自然情報研究会とは?

当NPOにて2006年から、年4~6回のペースで開催している研究会で、地生態学・景観生態学などにかかわる調査や研究、GIS情報整備や公開にかかわることなど、幅広い分野の方から話題を提供いただいています。意見や質問が飛び交う中から、新たな発想が生まれる場とするために、分野に限らず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお本研究会では、皆様の話題提供も、随時、受け付けています。ご興味のある方は是非ともご連絡下さい。



NPO法人
地域自然情報ネットワーク
The Geoeological Conservation Network

NPO法人地域自然情報ネットワーク(GCN)は
地生態学の視点から自然環境の保全を提案します

なお、GCNにつきましては、当会ホームページをご覧ください。
<http://www.geo-eco.net/index.html>